

業務部速報



No. 1

発行 25. 6. 13

JR東労組 業務部

申20号

「JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた 6月9日第2回交渉を行う！
新たな組織と働き方について」に関する説明申し入れ(その1) NO. 1

3. 鉄道の特性と特殊性に対する考え方を明らかにすること。

| 会社の考え方 | 説明内容のポイント |
|--------|-----------|
|--------|-----------|

【鉄道の特性と特殊性】

- ・鉄道のみならず生活ソリューションも同様に、すべての事業で不規則な勤務や深夜帯の勤務等、それぞれの系統で勤務の特性がある。乗務労働の特殊性はこれまでの議論経過もある。営業はダイヤに基づきサービス・商品を提供する。列車ダイヤに基づき体制の在り方を加味して作業ダイヤをつくる。乗務員は安全・正確、連続した緊張、車内サービスが特徴だが、列車ダイヤで行路の中身が変わるし勤務形態も変わる。指令も車両系統も特徴的な勤務と業務。設備は設備面と管理で安全・安定を支える。列車の走らない時間帯の点検、列車に近接した作業等の特徴がある。電気は信号や踏切対応の緊急呼出し等が多い。
- ・組織体系が変わり、制度の改正で働き方の違いはあるにせよ、仕事は抜本的に変わらない。

【業務手当について】

- ・鉄道と鉄道以外の業務を含めJR東日本グループにある仕事を捉え返し、それぞれの仕事と役割を担っていくために抜本的に見直し、業務手当とした。
- ・事務職の業務手当について、一括りにはいえないが企画業務の位置づけと考える。

【鉄道業務以外の特性について】

- ・生活ソリューション、不動産、ホテル事業、小売り等のショッピングセンター等もあり、勤務も事業の性質で決定する。
- ・時の移ろいで業務内容は変化し、それにより特性、特殊性、特徴は変わる。しかし業務自体の本質は変わらない。鉄道に限らず、他のビジネス全般にも言える。

4. 2022年以降、営業統括センター及び統括センターを設置してきた成果と課題を明らかにすること。

| 会社の考え方 | 説明内容のポイント |
|--------|-----------|
|--------|-----------|

【組織の見直し】

- ・以前は支社の判断がないと現場の発意を実現できなかった。現業機関もしくはお客さまに近いところへ権限を移し、よりお客さまに近い施策を実現した。
- ・営業統括センター化や統括センター化を経たことで、組織再編にポジティブに取り組んでいる。
- ・営業統括センターや統括センターは現業機関における柔軟な働き方の実現として、社員の活躍フィールドの拡大、社員の成長を実現し会社の発展に貢献した。
- ・看板や氏名札の指摘は把握している。統括センター化を抜きで一足飛びに今回の事業本部化は不可能だったと認識する。本部、統括センター化をステップで進めてきた上での事業本部への到達だ。
- ・これまでの組織再編の経費は把握していない。氏名札や看板の取り替えに留まらず間内改良や別の施策の統合などもあり、費用は示せない。

No.2に続く